

○駿河張下駄

張下駄は、明治時代に下駄の表面に桐の柾経木（まさきょうぎ）張りを応用して製造されたのが始まりと言われています。

昭和 36 年（1961）に、デコラ張り（プリント木目紙を台に貼りポリエステル塗装仕上げ）が開発されました。昭和 40 年代はこのデコラ張りが静岡の張下駄の大きな特色であり主流でした。

現在、紙布（しふ）、和紙、ツキ板など様々な素材を張り分けや型抜きなど多様な方法を駆使して、個性的な下駄を作り続けています。

昭和の初め、「塗下駄工業組合か」ら柾張り部として独立し、「静岡柾張加工組合」が結成され、昭和 43 年には、地域により一班から五班までに分かれた 33 業者が加盟していました。

昭和 43 年（1968）8 月 19 日第 1 回柾張加工新作展を一番町の組合で開いています。